

校友会報

日本大学工学部校友会

第73号

平成22年3月1日

INDEX

- ごあいさつ2
- 平成21年度第52回通常総会報告3
- 第29回「母校を訪ねる会」を開催4
- 平成21年度「母校を訪ねる会」「同級会」.....6
- クラブOB・OG会報告.....11
- 支部活動報告12
- 校友レポート18
- がんばり記19
- 俊英学寮の思い出 20
- 工学部NEWS21
- 校友会NEWS22
- 寄付者名簿23
- 通常総会・母校を訪ねる会の案内24



ごあいさつ



日本大学工学部長
出村 克宣

平成22年の早春を迎え、校友の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、近年の社会事情に鑑み、学生の就職に関して、多くのご配慮、ご支援をいただいておりますこと、厚くお礼申し上げます。

さて、工学部では、「ロハスの工学」を実践する教育・研究活動に取り組んでおり、「ロハスの工学」、「生物と環境の共生概論」、「水資源工学」、「環境と情報」など、ロハス(LOHAS)に関連した科目が増えております。又、平成22年度より、「物質化学工学科」が「生命応用化学科(Department of Chemical Biology and Applied Chemistry)」に名称変更し、生命化学の基礎から応用までの学習を目標にした生命分子化学コースが設置されます。一方、平成21年1月には、エネルギー自立型を目指した愛称「ロハスの家」1号が完成し、ロハスな工学部の象徴として話題になっております。

工学部のもう一つのキーワードとして、「医工連携」があ

り、次世代工学技術センター(NEWCAT)内で、医療工学に関連する研究活動が産学官連携で展開されております。平成21年11月には、その成果が、日刊工業新聞社主催の「第4回モノづくり連携大賞」において、『大賞』を受賞しました。又、福島県並びに郡山地域テクノポリス推進機構との連携により、基盤的製造技術の高度化を図る人材育成を目的とした「マイスターズ・カレッジ」を開催しております。工学部としては、学生の教育、工学分野における研究活動はもとより、地方中核都市に存在する学部として、地域の活性化にも寄与したいと考えております。

校友会報の発刊にあたり、工学部の現況の一端をご紹介申し上げます。

校友の皆様が築きあげてきた工学部の歴史と伝統を継承しつつ、教職員一丸となって、工学部の新しい歴史を刻んでいきたいと考えております。

今後とも工学部の教育・研究活動にご支援を賜りますようお願い申し上げますと共に、校友の皆様のみならずのご健勝とご活躍を祈念いたします。

ごあいさつ



校友会会長
手塚 公敏

日本大学工学部校友会会員の皆様には、新しい年を迎え、如何お過ごしでしょうか？

会長に就任させていただき、はや2年が過ぎようとしております。この間、各支部・支会を一通り訪れることが出来ました。それぞれが独自のやり方で支部・支会発展の為に頑張っており、感謝しております。このような時代ですから、皆様お互いに親睦を深め、助け合っており、工学部を卒業して良かったなという思いが出来るよう、今後とも、支部・支会の活性化の為に頑張っていたいだきたいと思います。

会員の皆様には校友会平成21年の事業活動をいくつか報告致しますと「50周年記念誌」は発行に向けて「編集委員会」が編集作業に入っており、近日中には発行の予定です。その前段として、学生向けにダイジェスト版を発行し、昨年9月のガイダンスで配布致しました。

また、学部執行部から例年8月に工学部グラウンドを使用して行われているサッカー大会の会場に雷警報機を設

置したいとの要請があり、その資金援助を致しました。

昨年4月からホームページをリニューアルしました。従来のホームページとは違い、校友に活用してもらえるよう、さらにコンテンツを充実させようと考えております。その一環として、ホームページから求人票をダウンロード出来るようにし、会員の皆様の勤務する会社がそれを通じて求人募集をかけてくれることで、学生の就職支援に繋がればと考えております。

その他、就学支援、就職支援等の特別委員会を設け、これらが学生の支援や校友会事業の充実に繋がるよう、各々委員会で活動中であります。

最後になりましたが、我が校友の佐藤勉君が国務大臣国家公安委員長として初入閣を果たした機会に、昨年4月に支援の為に「アカシア会」を「名倉会」を中心に立ちあげました。先の衆議院議員選挙におきまして、大変苦しい戦いではございましたが、比例復活ながら5度目の当選を果たすことが出来ました。これも偏に、ご支援頂きました校友会同志の皆様のお陰であると衷心より感謝申し上げます。今後のご支援をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

平成21年4月25日(土)、午後1時より第52回日本大学工学部校友会通常総会が開催された。

手塚公敏会長(土16)による開会の辞が述べられ、総会出席者から議長に小山田克己氏(土5)、議事録署名人に田中敏夫氏(建19)、金澤昭治氏(土20)、書記に深野一男氏(土20)、阿部充宏氏(土31)をそれぞれ選出し議事にはいった。

鈴木守総務委員長(電16)から「平成20年度会務報告」水上崇財務委員長(建22)から「平成20年度一般会計・特別会計収支決算報告」がなされ、渡邊信一会計監査(土21)による監査報告がなされた。さらに両委員長より「平成21年度事業計画」および「平成21年度一般会計・特別会計収支予算」が提案され、質疑応答の結果、賛成多数で承認された。

総会終了後、恒例の懇親会を開催した。来賓に酒井健夫総長をはじめとする本部関係者、出村克宣学部長をはじめとする工学部関係者さらに他学部校友会会長・代表者をお迎えした盛大な懇親会となった。

○校友会功労者の表彰

本会の会務遂行ならびに発展に貢献した功労者13名に表彰状、記念品を贈呈した。

表彰者(敬称略・表彰順)

所属等	氏名	学科・回	表彰理由
特別枠	米山和男	土23	関東支部事務局長を歴任(故人)
特別枠	小山田克己	土5	本会設立に尽力
本会元役員	橋本寛	建10	本部校友会事務局長歴任
本会元役員	石井和樹	土13	本部校友会常任幹事歴任
本会元役員	八木宏純	工14	本部校友会常任幹事歴任
本会元役員	伊藤義人	電16	本部校友会副会長歴任
本会元役員	野尻大五郎	工16	本部校友会常任幹事および会計監査歴任
関東支部	根本亮	土3	東京支部・関東支部設立に貢献
北陸支部	鈴木隆	建14	北陸支部長歴任
東南海支部	藤原正臣	土6	東南海支部設立に貢献
東海支部	平野卓	土3	東海支部長歴任
四国支部	谷久嘉典	土8	四国支部長歴任
九州支部	矢俣敏之	建8	九州支部長歴任

○準会員(学生会員)の総会・懇親会出席

体育会、学術文化サークル連合会、北桜祭実行委員会の代表者数名が出席した。総会では参加した学生から意見や要望事項が述べられ、校友と学生との交流の場として大変有意義なものになった。



平成20年度一般会計収支決算書

収入の部

単位：円

科目	予算A	決算額B	比較増減(A-B)	付記
選付金収入				
工学部校友会選付金収入	34,650,000	33,257,000	1,393,000	対予算の減 1,359,857
本部校友会正会員交付金	100,000	120,000	△20,000	
雑収入				
預金利息収入	50,000	63,143	△13,143	
積立金取崩収入	0	3,466,510	△3,466,510	
当年度収入合計	34,800,000	36,906,653	△2,106,653	収入減1,359,857と 支出増2,106,653の合計 3,466,510を積立金より繰入
前年度繰越支払資金	0	0	0	
収入の部合計	34,800,000	36,906,653	△2,106,653	

支出の部

単位：円

科目	予算A	決算額B	比較増減(A-B)	付記
学部への補助費				
60周年記念館建設寄付金	5,000,000	5,000,000	0	
工学部バス購入支援寄付金	0	3,000,000	△3,000,000	学部要請により新規
学生への補助費				
学生支援基金特別会計繰入支出金 (学内表彰、課外活動支援)	0	0	0	特別会計内繰越金で運用
行事関係補助費				
北桜祭協賛金	100,000	100,000	0	
入学式記念品	1,700,000	1,365,000	335,000	
卒業式記念品	1,800,000	1,800,000	0	
卒業記念パーティ補助金	300,000	300,000	0	
箱根駅伝協賛寄付	300,000	300,000	0	
事業関係支出金				
会報発行費	4,300,000	4,238,535	61,465	
広報活動費	700,000	600,000	100,000	
校友情報管理費	400,000	165,816	234,184	
母校を訪ねる会	500,000	534,555	△34,555	
校友支援特別会計繰入支出金	200,000	200,000	0	
冠講座開講特別会計繰入支出金	200,000	200,000	0	
校友会歴史資料収集編纂特別会計繰入支出金	150,000	150,000	0	※1
工学部校友会50周年記念誌発行特別会計繰入支出金	300,000	300,000	0	※2
工学部教職員連絡協議会	400,000	389,550	10,450	
運営費				
支部活動支援費	2,250,000	2,200,000	50,000	
負担分担費	230,000	200,000	30,000	工科系校友会分担金
会費	593,000	515,000	78,000	本部校友会支部会費
総会会議費	500,000	493,930	6,070	本部校友会役員会費他
諸会議費	220,000	210,790	9,210	
旅費交通費	3,700,000	3,449,334	250,666	
維持管理費	50,000	42,000	8,000	
交際費	1,200,000	1,533,076	△333,076	(招待先懇親会祝金、 弔電費用等を含む)
通信連絡費	740,000	563,670	176,330	
図書印刷製本費	350,000	379,544	△29,544	
備品費	200,000	732,600	△532,600	校友会旗、資料ロッカー
事務用品費	300,000	373,477	△73,477	
手数料	10,000	6,880	3,120	
支払い手数料	50,000	34,825	15,175	
福利厚生費	50,000	174,010	△124,010	
給与手当	6,500,000	6,384,110	115,890	
法定福利費	890,000	862,896	27,104	
職員退職給与積立特別会計繰入支出	100,000	100,000	0	
奨学等基金への繰入支出				
就学支援特別会計繰入支出	0	0	0	特別会計内繰越金で運用
予備費	517,000	6,555	510,445	※1に2,360 ※2に4,195
当年度支出合計	34,800,000	36,906,153	△2,106,153	
次年度繰越支払資金	0	500	△500	残高証明手数料
支出の部合計	34,800,000	36,906,653	△2,106,653	

「母校を訪ねる会」第29回を開催

日本大学工学部北桜祭の最終日となる10月25日(日曜日)、第29回目の「母校を訪ねる会」が開催されました。

対象学年は、卒後40年となる、昭和34年3月卒業生他、昭和44年、昭和54年、平成元年卒の皆様でした。

今年は、168名と例年に比べ参加人数が少なかった事に対し、参加された方々の熱気は例年に勝る勢いで、多少の社会情勢などには影響されない工学部卒業生の強さを感じました。

懇親会は、出村克宣工学部長、手塚公敏工学部校友会長の挨拶に始まり、三ツ井直紀工学部事務局長の乾杯で懇談に入りました。また、出席者挨拶として、建築学科昭和34年卒、鈴木重男氏、工業化学科昭和54年卒、金澤裕氏の両氏に、在学中の思い出を交えたご挨拶をいただきました。今年度も、懇親会のお場をお借りして、校友会から工学部への援助として「雷警報機設置一部助成金」の目録授与をさせていただきました。これにより、雷による事故の発生を防ぎ、在学生がより安心して活動できる事を願います。

その他應援團の演舞での校歌斉唱や、中村玄正名誉教授による万歳三唱を経て、閉会となりました。

今年の新型インフルエンザの猛威にも負けず、盛況に

「母校を訪ねる会」を開催できました事は、工学部卒業生のありあまる活気と、母校工学部や校友会に対するご支援のもと受け止めています。この活気あふれる工学部OB・OG達は、在学生にどのように映ったでしょうか。工学部精神を受け継ぎ、諸先輩方のように活躍する希望となったことと思います。

30周年記念館では、「工学部60周年の歩み、写真と資料展」を開催しており、昔の授業で使われていた機材や、当時の風景写真、北心寮の資料等を展示しておりました。そちらに足を運ばれた校友も多くいらしたようです。

また、今回から、校友会グッズとして、建築学科昭和35年卒古橋栄吉先生作の、工学部校舎の絵はがきを販売し、記念にと、多くの校友にお買い求め頂きました。8枚入り1,100円(送料込)ですので、ご購入を希望される方がいらっしゃいましたら、校友会までご連絡下さい。他に、アンケートも実施いたしました。「母校を訪ねる会」の感想や、ご希望等がございましたら、ホームページのメールフォーム、または電話、FAXなどでお知らせ頂ければ幸いです。

工学部卒業生の更なる飛躍を期待するとともに、来年の「母校を訪ねる会」にも、多数の参加をお待ちしております。



第29回 母校を訪ねる会(第7回・昭和33年度卒、第37回・昭和63年度卒) 平成21年10月25日



第29回 母校を訪ねる会(第17回・昭和43年度卒) 平成21年10月25日



第29回 母校を訪ねる会(第27回・昭和53年度卒) 平成21年10月25日



母校を訪ねる会に出席して思うこと
建築7回卒 鈴木 重男

昭和34年3月に第二工学部建築学科を卒業して、今年で50年が過ぎました。

大学の環境も当時とは大きく変わって、学園らしい研究学研の府としての輝きを実感しました。地域に根ざした大学として多くの市民住民との交流や、市民の為の公開講座等、開かれた学園として多くの人々に理解してもらうことも大切であると思います。



私共の時代は、下宿も3食付で、良くお世話いただいたことを思うと地域や学校には感謝の念で一杯であります。

若い時は、自由をいいことに自分の都合でのみ行動していたと思います。今考えると恥ずかしい限りであります。

郡山の冬は風が冷たく、非常に寒かったことを思い出します。温暖化の進んだ現在でも風の冷たさは結構身にしみます。

当時より郡山に来て一番楽しみにしていることは、安達太良の山がすっきりと全景が見える時である。大学2年の夏に友達と、登山したことが、今は良き思い出であります。水郡線の車窓から見える時が、最高の景色です。

又 当時は上京するのに急行で5時間半もかかった国鉄も現在は民営化され東北新幹線が走り、東京迄1時間10分位で着く様になり驚くばかりです。都心に就職した当時は、都電が便利に縦横に走っていたが、今は地下鉄が多く開発され「モグラ」の様であります。

我々の建築技術も、大きく進歩し超高層は日常茶飯事です。建築は、意匠も構造も大きく変わり、地震の度に研究され進歩の連続です。

パソコンも今日では、自然に、便利に使われているが、技術的にもなくてはならぬものになるも、我々の時代は、汗と努力でやってきた時代である。それだけに達成感も大きかったと思います。しかし時代がどう変化しようとも、変わってはならないことは、人の心である。恩に報いる心（義理をかくな）人を愛しむ心（人情をかくな）社会に奉仕する心（欲をかくな）等々人格は、昔も現在も変らない様になりたいと思います。

母校を訪ねる会へお招きいただき昔の友人に会い、色々な思い出に浸れたことに、心より深く感謝申し上げ

げます。

最後に学園の発展と学生 職員の皆様の健康とご活躍を心よりご祈念申し上げながら結びと致します。

本当に有難うございました。

追伸 水戸市は、今年 市制120周年（明治22年・1889年）水戸藩開藩400年徳川家康公の第11子 頼房公により開かれた。（1609年）

昭和20年の空襲により大部分が焼失しております。



「母校で会おう」訪問記

電気7回卒 工藤 博康

「出湯で酌交し、今年は母校で会おう！」など同期の友の賀状に添書きしていましたが、前回同様佐藤幹事の発案によりクラス会を開催、10名が磐梯熱海温泉に参集。

50余年前、電気という学術を究めるべくして仲間となった縁が、暫くぶりの再会にも拘わらず忽ち昔にかえり、色んな話題で賑わい懐古に暮れた一夜でした。

職場の様な上下関係もなく、気兼ねなく歓談出来るのも同期会のよいところ。70代ともなると、親、或いは夫婦どちらかの介護やその先の相続、健康等避けては通れない課題に直面するやもしれぬ年代でもあると自覚しました。

夫々にまだ就業中とか、地域貢献、或いはダンス競技、書道、登山等の趣味に生き甲斐を見いだすなど、しっかりと人生の地歩を固めつつあると実感しました。

翌日車で母校訪問の途中、以前と違い輻輳した道路に難渋、行きつ戻りつようやく到着、在校時とは一変した一大学都が目の当たりに。

教室棟や諸施設の整備拡充が図られ、なかでも60周年記念の70号館が一際高くそびえ9階から展望すると構内は勿論、郡山市街地が遠望出来ました。この建設資金の一部にと寄付した事を思い出し、その氏名刻印を皆で探したところ、壁面に七期生達の名と共に印したのを確認しました。七回生の出席では電気科が一番多く、会場では一隅のテーブルを占領した次第。教鞭をとっておられた渡辺先生もみえられ、在学当時の話に花が咲き、私共の名前まで憶えておられたことに脱帽でした。

那須先生、本間先生、本郷先生、中鉢先生、宍戸先生達の消息や思い出話にまで及び、卒後半世紀を経て、前回に続きこうして出席できたことに感慨深い

ものがありました。物故された先生もおられ、改めてご冥福をお祈り致します。

また30周年記念館では「工学部の歴史展」が開催され、当時の写真・実験器具等の展示の他、広川、横井両先生の論文にも接しました。

下宿や授業で知己を得た他科の学友とも再会、郡山で旧交を温めようと大学専用バスに便乗させて戴きました。さすが車内は大半が女子学生で、工学を志すエンジニアの卵の前途に熱き夢を託す瞳が頼もしく、男子が多い昔と違う現代の校風を垣間見た一面でした。

年々歳々卒業生を送り出し、本学の歴史を積み重ね伝統が培われてきましたが、更なる発展を祈念するものです。

つかの間の邂逅と別離、名残も尽きない思いでしたが、私共には毎年案内がある由、再訪を期した？同輩とともに今回参加できなかった方達との次回に期待しつつ筆を置きます。



母校を訪ねる

建築17回卒 遠藤 信江

母校を訪ねる会と前日にゴルフと懇親会の案内を同級生の倉田教授よりの案内が届いた。近年同級生と東京にてゴルフの会に参加していたけれど、また新しい顔に会える楽しみもあって即座に参加した。当日の同級生は学生時代の面影が残るものの頭は白髪と禿、顔は皺と痣、体型はもとよりメタボと短足で時代の変遷を物語っている面々が参加した。皆んな懐かしい表情から始まり、急に時代が40年逆戻りの俺、お前の呼び名、寮や下宿での生活や街の気質、教授方の授業など内容で共通認識を確かめ合いとゴルフという共通な話題が合ったことに加えて学生時代に戻れたのでした。翌日の母校の校庭に立った印象は、40年前の戦争中の航空隊が使っていた木造校舎の体育館での入学式、第二工学部より工学部への名称変更するための学生集会、大学紛争で本館の延焼と学生の活気が走馬灯のよ

うにかけめぐり、我々の学生時代は熱気に包まれていたことを改めて自覚し、同級生と今度会い見える日があるか分からない状況に在りながらも、お互い体を大切にして頑張り再会するように同級生と確かめ合い、強く生きようと念じた一日でした。



同級会に出席して

機械17回卒 今里 和成

時刻と成り会場に着いた。先輩方も一緒なのか、思いつつテーブルに近づきながら、記憶の引き出しを残らず開けて覗き込んだら、小さな切れ端が数個見つかった。彼らの中に、それと重なる部分が少しずつ見えてきた。何と、目の前の「もみじマーク」の御一同は、我らが御学友なので在る。ガッカリするやら、ビックリするやらで、無理に笑顔を作ると相手も同じ様な顔をしていた。あの日の記憶は手付かずのままで、改めて開き観る今日の自分は、あの日に戻っていた。



そして我に返り、現実とのギャップに驚き、過ぎ去った40年は、自分にも在った事を思い知らされた。もみじマークの御学友と共に席に着いた。最初に既に故人と成って、再会を果たせ無かった友人に黙祷を捧げ冥福を祈った。しばらくの静寂の後、改めて集う事が出来た事を喜び、盛大に乾杯をした。夫々の抜け落ちた記憶の隙間を埋める様に、一人ずつのそれからを語る喋り場となった。友人達の話、自分と重ねて聴いていた。開発に追い捲られて忙しかったが充実していた

頃が在り、又失われた10年と呼ばれた時期は、皆夫々に頑張って居た事を知った。思い返せば短い様でも、長い様でも在った。皆の話が一巡した後の共通の話題は、やはり学園紛争の事で、分散授業や卒研無しの押し出し卒業などで在る。下宿や寮の話を肴に一次会、二次会と夜遅くまで喋りそして飲んだ。学生時代の気分を少しだけ思い出させる同級会でした。今回は10年後である。その時、僕のもじりが枝先に残って居るなら出席したいと思っている。



「懐かしき日大郡山」

電気17回卒 西条 晃

昭和44年（第17回）卒業といえば日大学生紛争の真っ只中で最終学年（4年生）を過ごしました。卒業に必要な授業時間を確保する為、開成山の旅館で授業を受けた記憶が今でも鮮明に残っており、ドサクサにまぎれて？卒業したような気がいたします。紛争中に校舎に立てこもった仲間、それを奪還しようとした仲間との再会もありました。

クラス会では全員からのブリーフスピーチで40年間の人生の苦労話、厳しかった仕事の話、最近の健康等の話がありました。すでに記憶にない仲間もいましたが青春時代の4年間を日大郡山で共に学び過ごした日々は間違いなく共有しており、和やかな雰囲気です。楽しい懇親会となりました。そして近々のクラス会の再開を決めてお開きとなりました。



次の日のゴルフコンペは記憶に残る大雨でしたが渡辺清未先生以下全員が元気で1Rのプレーが出来ました。

最後に「母校をたずねる会」主催者・校友会殿、クラス会にご協力頂いた皆様にご厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



40年ぶりのキャンパス・ライフ

工化17回卒 小野 泰輔

10月25日（日）。カーナビの音声案内で、だいぶくねくねまわり（カーナビにだいぶだまされた？）、ようやく大学正門に辿りついた。正門で駐車場を案内されて構内に入った。余りの様変わりで、記憶を辿ってもほとんどイメージはない。これでは平成の浦島太郎か？と思わざるを得ない。

キャンパスでは、学園祭（北桜祭）が開催され、にぎやかだ。屋台も多数用意され、学生の呼び込みも活発だ。

大学のクラブ、同好会などに所属している学生が主に模擬店を開いて、活動資金？を稼ぐためらしいが、元気がよいのがすばらしい。学生に生活ぶりを尋ねてみたが、「将来のことも心配だが、現在は充実している」が大方の答えだ。映画の山田洋次監督が「今の学生は、人（社会）に接することが少なすぎる。もっと人に接することが大事だ」と話していたが、模擬店の経験も社会人になればおおいに役立つのではないかと。積極性に拍手を送りたい。

年次別の記念撮影が終わり、大学の記念絵葉書にも入っている50周年記念館で懇親会が昼頃から始まった。暫らくして「工化17回の〇〇さん、いらっしゃいましたらこちらへ」とマイクで呼ばれ、行ってみると花島君と森君が席を温めていた。40年ぶりの再会！感無量だった。改めて、再会を祝して乾杯した。少人数ではあったが、同じ釜の飯を食った友との語らいは楽しかった。暫らくして、応援団による校歌、応援歌が始まったが久しぶりに聞くせいか、胸にこみ上げるものを感じた。

しばし懇談のあと、花島君、森君と10年後の「母校を訪ねる会」での再会を約束した。



散会のあとキャンパスを歩くと、そこには枯葉がかさかさ音を立てて落ち、残照に輝く実験棟が建っているのだった。この実験棟から世界に羽ばたく研究者

が多数現れることを期待せずにはいられない。特に2010年から名称変更して誕生する生命応用化学科は、新しいカリキュラムで再出発し、時代のニーズに合った特色ある学科に変化、発展するように願っている。



「卒後30年」

建築27回卒 有我 新一

時の経つのは早いものです。

卒業から30年経つと、緑溢れるキャンパスには当時なかった立派な建物がいくつも建っています。

私は、隣街に居住していますので、北桜祭にはもちろん、花見や散策など機会があるごとに母校にお邪魔しています。その度に、変わりゆく姿を目にし、環境と共存しながら発展を続ける母校を誇りに思うとともに、当時の学び舎が今でも健在であることに、何やら心の安らぎを感じるものです。

そのような中、この度、「母校を訪ねる会」に参加させていただきました。

実は、10年前の訪ねる会には諸般の事情で参加できなかったものですから、この時をずっと楽しみにしていました。

当日は妻同伴で出席しました。記念撮影までの間、北桜祭を見て回りましたが、訪ねる会参加者と一目で分かるような姿のせいか、学生たちは特に親切丁寧に対応してくれたように思いました。次回の北桜祭も楽しみにしています。

最後に、前夜祭の同級会でお世話になりました手塚校友会会長はじめ諸先生方、岩谷、亀本両代表幹事はじめ幹事の皆さん、そして高校時代からの友人、金澤裕君に心から感謝いたします。どうもありがとうございました。



会が始まりました。久しぶりに会う同級生は、髪の毛の有る無し、真っ白になった者、若干太めになった者など年月を感じさせますが、30年間はあっという間に逆行し、当時のままの「お前、俺」という会話になり、勉強そっちのけの麻雀や酒、下宿、アーケード街などの話題で、大いに盛り上がりました。今回、笹の川酒造さんのご厚意により、貴重な古酒ご提供頂き、また薄皮まんじゅうの柏屋さんにもご協力を頂くなど、郡山の名産品にも堪能いたしました。時間も限られており、名残惜しいのですが、応援団であった桜井君が気合いの入ったエールを切ったあと、三本締めでお開きとなりました。次回の同級会にも皆の元気な姿を見られることを願いつつ、会場を後にしました。



「30年目の再会」

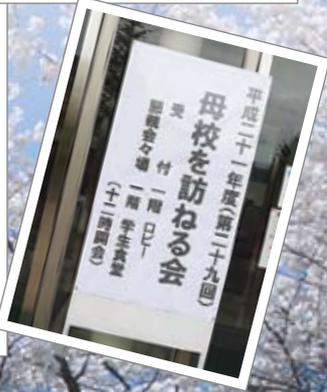
機械27回卒 神藤 奉則

10月24日、平成21年度の母校を訪ねる会に併せて、同級会を化学12名、機械18名を中心として、建築2名、土木1名の4学科合同で郡山ビューホテルにて開催しました。来賓に校友会の手塚公敏会長、物質科学工学科の平山和雄教授、機械工学科の渡部弘一准教授、柳沼孝侑先生にご臨席を賜りました。代表幹事の岩谷、亀本両君の挨拶、鏡割り、金澤君による乾杯と続き、宴



母校を訪ねる会

スナップ写真アラカルト



台風の中、尾の道へ

機械14回卒 川辺 和洋

本年10月8日～9日に私の住む尾道で有志会を開催しました。10月7日からちょうど台風が日本列島を横断中で、関東方面から来る有志は、8日の朝早くから家を出ても、新幹線が一時不通になる区間もありましたが、全員無事に予定時刻に到着しました。尾道に初めて来た有志も多く、ロープウェイに乗り、尾道を一望できる旅館に宿泊し、大学時代の思い出を語りながら楽しい一時を過ごしました。定年後の世代となった我々は、第二の新しい人生を楽しむものもあれば、現役で仕事を頑張っているものもいます。また数年後にそれぞれが頑張っている姿を見せる機会が持てることを期待しています。



第10回の総会は「創部50周年」も近づき、新時代の兆しが

日大工学部管弦楽部OBOG会広報担当 桃井 忠男

郡山は平成8年『音楽都市宣言』をし、町中に『楽都・郡山』のポスターやフラグが飾られており、我々を歓迎しているかのようなムードが漂っている中、総会は10月24日に開かれた。会場は、郡山駅前の郡山ビューホテル・アネックス13階の『ラ・ベルコロヌ』。卒業以来初参加の小野寺拓磨氏や現役代表4名も参加し、杉坂宏欣氏の司会も軽妙でファミリーな雰囲気の中で進められた。『50周年記念行事』の呼びかけや好演奏会や懐かしい記録の閲覧も年毎に増え、新時代を迎える兆しが感じられた総会となった。

千秋暢良会長は「総会は10回を数えました。2年後に管弦楽部の創部50周年が迫っており、お互いに健康に留意し、今後も仲間に声掛けし、楽しい日大工学部管弦楽部OB・OGの音楽活動を広めて行きたいと思

ます。益々のご協力をお願いします。残念なことに高木久恵さん（旧姓高沢・建築17回卒）や富田憲一さん（建築18回卒）の訃報が届きました。ご両人のご冥福をお祈りしましょう。」と挨拶された。引き続き音楽活動でも活躍している大勢の仲間の紹介や郡山在住の浜尾運営委員から「50周年記念行事」に関する現役からの相談報告があったので、参加者はそれぞれの所属時代に御世話になった指揮者や部長先生、切磋琢磨した仲間を思い出し、新たな取り組みに目を輝かせていた。

東京の仲間の練習成果の披露では①羽鳥勝美氏作曲のピクニック②バッハのアリア③チャイコスキーのアンダンテカンタービレ④椰子の実（全員参加の合唱）の四曲が奏でられた。飛び入り演奏ではグノーのアベマリア（篠原・アルトリコーダー、桜井・バイオリン、杉坂・ビオラ、千秋・チェロ）、ショロム・セクダのドナドナ（森・フルート、篠原・アルトリコーダー）の熱演があり、器楽演奏の魅力に会場が笑顔で溢れた。

翌日は有志が北桜祭で管弦楽部の演奏を鑑賞し、現役全員との交流を行った。

なお、年会費2000円の振込は、郵便局口座名「日本大学工学部管弦楽部OB・OG会」「記号10530」「番号65105371」へお願いします。



合気道部創立50周年記念演武会 並びに祝賀会のお知らせ

合気道部OB会会長 手塚 公敏

50周年記念祝賀会実行委員長 城座 隆夫

日本大学工学部体育会合気道部は、昭和37年創部以来、諸先輩や関係各位のご尽力と、工学部当局のご理解、ご援助のおかげをもちまして、今年で50年を向かえることになりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

受け継がれた50年の歴史と伝統をこれからも継続して行く節目として、学部祭が行われている本年10月16日（土）に創立50周年記念演武会並びに祝賀会を右記の通り開催致します。

諸先生、諸先輩、関係各位のご臨席をお願いすると共にこれからも変わらぬご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

		記	
演武会	日時	平成22年10月16日（土） 13時から15時まで	
	場所	日本大学工学部 武道館・合気道部道場	
祝賀会	日時	平成22年10月16日（土） 17時から19時半まで	
	場所	ホテルプリシード郡山 郡山市中町12-2 TEL 024-925-3411	

支部活動報告

北海道支部活動報告

建築25回卒 北海道支部長 **横関 一伸**

本年度支部総会は、工科系校友会北海道支部桜工会60周年記念祝賀会と合同で平成21年8月21日金曜日に札幌全日空ホテルにて工科系四学部の校友会の代表の方々をはじめとして、法学部などの在札の支部長さん方が御出席いただき、ご来賓を含めて、130名あまりの同窓生が一同に集合いたしました。

まず最初に、工学部北海道支部の総会を工学部より出村工学部長をお迎えして、北海道支部会員80余名の参加により、総会を行いました。



それが終わり、各工科系の学部の同窓生が入り、桜工会総会を行い、桜工会功労者に表彰をし、60周年記念講演を芸術学部卒業の山本晋也監督に「ワイドショーの裏側社会学」という演目で話していただき、楽しくて時間を30分以上もオーバーされました。懇親会にも参加され、同窓の方々や暫くぶりに参加された方々と楽しく近況報告など懇談されました。

郡山での生活や思い出話に華を咲かせ、北海道の不況がどうしようもないと何か悲観的な話ばかり出ていましたが、みんな元気を出して、これを乗り切ろうと誓い合い、日大校歌、若きエンジニアの歌などを合唱し、そのまま、2次会へと繰り出し、中に、5次会迄と

いう方々も沢山お出でで、皆、名残惜しそうに一時を過していました。

来年は、各支会での校友会ももっと活発に行い、この経験のない不況を克服すべく、日大工学部の絆を深め、北海道支部、工学部校友会を盛り上げたいと思います。最後に北海道支部では北海道にお帰りになられた方、又、新卒生の参加を歓迎しています。

関東支部活動報告

土木17回卒 関東支部長 **盛武 建二**

平成21年7月4日の関東支部総会において、私は兄玉支部長から支部長を引き継ぎました。これから、兄玉前支部長が作り上げた支部を維持し、新しい活動を行っていきたいと考えています。

具体的には、1.支部校友会参加者の拡大、特に若手校友の参加。2.支部資金の充実。3.校友会本部との密なる仕組み創り。4.学生と校友との交流。5.学生の入学・育成・就職の支援。6.各支部との連携です。

学生の育成と校友との交流のため、平成21年7月27日～28日には茨城県において工学部土木工学科の長林先生や女子学生7名が参加して東海村の日本原子力機構、茨城空港、日立中港などの見学・研修会を企画・支援しました。その際には校友の根本、坂入、宍戸、小林諸氏から社会人としての心構えの指導もあり、成果を上げることができたと自負しております。特に女子学生は男子に比べて現場や職場研修の機会が限られているためこの企画を支援しました。

本年の主な関東支部事業として、関東支部・神奈川県・栃木県・東京都の各支部総会実施。

日本大学校友大会、理事長祝賀会、副総長祝賀会、東東海支部総会、箱根駅伝応援などへの参加を行いました。

尚、以下に新役員の紹介をしておきます。今後とも

よろしくお願ひ申し上げます。

支 部 長 盛 武 建 二 士17
副支部長 坂 入 健 士17
副支部長 深 野 一 男 士20
副支部長 小 林 啓 一 士20
副支部長 永 田 正 一 郎 士21
副支部長 中 村 益 美 士21
事務局長 城 座 隆 夫 機21
事務局次長 永 田 直 史 機29
監 査 田 邊 忠 博 建19
監 査 三 橋 慎 一 士20
顧 問 根 本 亮 士 3
顧 問 小 山 田 克 己 士 5
顧 問 児 玉 憲 明 士14
顧 問 川 名 寛 章 士16
顧 問 佐 藤 勉 士23

関東支部東京都校友会活動報告

関東支部東京都校友会総会を終えて

建築29回卒 東京都校友会事務局長 松崎 信一
12月5日に品川プリンスホテルにて、出村学部長・手塚校友会会長・佐藤勉氏（前総務大臣）はじめ他支部校友会役員の方々を含め、約40名程の会員が集まり、東京都校友会単独としては初めての総会が新役員の下で無事に開催されました。



総会にて、勝又新会長が、校友会を仕事関係に結び付けたり、校友と絆を深めたり新たな出会いをしたりする場とし、今後もっと多くの参加者を集い、学生への様々な援助及び工学部の発展に寄与していくとの趣旨の挨拶がありました。また出村学部長と手塚会長からの挨拶では、近年特に今年は就職募集企業が少なく大変就職率が悪い現状であり、会員の皆様には是非協力してもらいたいとの事でした（資料として募集要項を配布しました）。この後、校歌斉唱・出席者全員の自

己紹介などを行い、和やかな雰囲気の中で総会を終了しました。

事務局としては、年末の忙しい時期での開催、案内状送付の時期・方法を反省すべき点とし、東京都校友会としては、全役員結束の下で益々の発展をしたいと思ひます。

北陸支部活動報告

建築17回卒 北陸支部長 笠井 隆

校友諸兄には益々ご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。

今年度の主な活動は8月1日に新潟市内のホテルにて第9回定時総会を開催しました。本部から手塚公敏校友会会長、アカシア教育研究会から油浅耕三さん（建築14回卒）の御出席を頂きました。

手塚会長から校友会の現状とこれからの方向性、学内の近況報告を、油浅さんから教育会における校友の活躍のご挨拶を頂き、参加者一同、意を強く感じた次第です。

総会終了後は父母会と合同で懇親会を行いました。恒例となった校歌、応援会、日大節などに声を張り上げたりと和気藹々の一時を過ごしました。又9月26日には阿賀高原ゴルフ場に於いて懇親ゴルフ大会を開催し、関竹夫さん（土木22回卒）が昨年に続き優勝されました。

4月25日開催の平成21年度工学部校友会通常総会の席上で前支部長の鈴木隆さん（建築14回卒）が功労者として表彰されました。平成12年の支部設立のご功績に心より敬意を表します。

活気ある支部づくりに努めてまいりますので、何卒今後ともよろしくお願ひ申し上げ、活動報告と致します。



土木15回卒 東海支部長 川村 智健

校友の諸兄にますますご活躍のことと心よりお喜び申し上げます。

今年度の主な活動は、4月25日に工学部50周年記念館で開催された「工学部校友会平成21年度通常総会」にその第一歩を踏み出しました。

この席上で校友会功労者表彰が執り行われ、東海支部から平野卓様が「校友会東海支部の発足に尽力し、第1回の総会（昭和47年9月2日）に支部長に選出されて以来、第27回総会（平成11年8月4日）で退任するまでの27年間の長期にわたり支部長を務め、支部活動の要として後輩を指導し、支部の発展に寄与されるとともに、本部校友会の発展にも尽力された」との功績が認められ表彰の榮譽に輝かれました。

7月24日に名古屋駅前のホテルキャスルプラザで東海支部総会を開催いたしました。

来賓として手塚公敏工学部校友会長と工学部より長林久夫先生（土木工学科）をお招きし、手塚会長からは校友会の現況と今後の方向性等、そして長林先生からは大学の現状と学内の近況等についての報告を含めた挨拶を頂き、参加者一同深く心に感じたことでしょう。続いて、恒例の活動報告、会計報告が原案通り承認されました。場所を移して懇親会へと続き、最後に全員で校歌を斉唱して和気あいあいのうちに支部総会を終了しました。

今回の総会は、例年行っていましたが講演会がないにもかかわらず、多少なりとも参加者が増え、且つ若い方々の参加者が多かったことです。紙面をお借りして近藤事務局長やそれをサポートしてくれた方々に厚く御礼申し上げます。

8月28日に、船橋市習志野野にある日本大学薬学部で開催された「第12回工科系校友会支部長会議」に出席いたしました。工科系校友会連絡会の役員の方々（薬学部校友会、理工学部校友会、工学部校友会、生産工学部校友会の役員総勢30名）と工科系校友会地方支部、工学部校友会支部、薬学部校友会支部の代表者等総勢40名が一堂に会し、工科系校友会幹事会の報告、4学部校友会長の挨拶と会務報告、そして各支部が支部の近況を報告し合い、2時間が慌ただしく過ぎてしまいました。場所を移して、4各学部の学部長等を交えての懇親会も和気あいあいのうちに終了いたしました。

11月15日に父母会の役員会の席にお招きを頂き、父母会と校友会とが連携を取り合って活動していけない

だろうかとの相談を受けました。父母会の東海支部は会員数35名で（愛知、岐阜、三重の他に滋賀、京都、大阪、和歌山の関西地区会員を含む）、支部総会の日には、学部からの出席者より1時間ほど講演を頂いた後に、個別面談を実施している旨の報告を受けました。また、校友会北陸支部では父母会と合同の懇親会を行ったとお話を聞きました。遠い昔話ですが、工学部自体が名古屋で父母会を実施していたころには東海支部総会の日時を合わせていたことをお話しし、現在は名古屋での父母会の開催が無くなったために校友会単独で総会を行っている旨を話して別れました。校友相互の親睦はもとより父母会との協力体制の基に就職援助等々を通じて相互が連携して活動してゆけないものかと思いました。

11月28日には昨年の5月以来の懇親ゴルフコンペを開催し、早朝スタートでかつ参加者が少ないにもかかわらず、和気あいあいのうち、高田和典さん（電気17回卒）の優勝で楽しい一日が終わりました。

この一年を通じて、校友の各種集まりに参加して感じたことは、会の運営にいずれも苦勞されていることを痛感いたしました。その原因は、校友会自体の存在感が薄れ、校友会活動に価値観を見出せないのではないかと思います。以前のような先輩後輩の人間関係を必要とせず、コンプライアンスの強化により各種会合等への参加もままならず、費用面においても従前は企業等の負担に甘えられていたが個人負担に様変わりしたのも理由の一つかもしれません。特に若年層においては給与の減少に加えて、費用負担が大きくなるのしかかりその傾向が顕著に表れているような気がいたします。

校友の皆さん、このままでは校友会の存亡に係わる重大な時期が到来してきます。校友の交わりの場には是非是非一度参加してください。そして活性化に向けて相互が手に手を取り合い、そして明るい熱気あふれる校友会にしてゆこうではありませんか。



東東海支部(静岡アカシア会)報告

土木28回卒 東東海支部長 **大澤 俊幸**

平成21年度支部総会は県中部地区総会を兼ねて平成21年10月31日(土)手塚会長、学部より出村学部長、古河教授(土木)のご出席を頂き、また県中部地区の校友を中心に160余名という多くの参加を頂き、盛大に開催されました。静岡県は東西に長く参加もままならない地区もあるため3年前より県内を3地区(東・中・西部)に分けて開催、支部総会を持ち回りで兼ねるという方式で実施してきました。ですから本年度は中部地区総会が支部全体の総会を兼ねることになりました。7月の西部地区会(浜松市)も40年の伝統を誇りますので、100余名の参加で熱気溢れるものであります。会は麻生内閣で大活躍された前総務大臣・佐藤勉氏(土木23回)や、富士高校からアカシアの森で学んだ今や千葉県議会で連続4期当選の重鎮・川名寛章氏(土木16回)、富士市出身で静岡国体メインスタジアム・小笠山総合運動公園はじめ県内の病院・庁舎の大半の設計監理に携わった国内最大大手の佐藤総合計画顧問の小林登志夫氏(建築9回)、三島市出身でこれまた土木道路業界では最大大手、前田道路を率いる、勝又和成氏(土木23回)の本県縁の校友や、関東支部顧問の児玉憲明氏(土木14回)、支部長盛武建二氏(土木17回)、北陸支部からは、本県に多くの教え子がおられる岐阜高専から移られて現在、新潟工科大学教授の油浅耕三氏も会に花を添えていただき、多くの校友と久々の再会をすることが出来ました。特に佐藤氏は校友の熱い熱い応援で今回の暴風雨の中で連続5期の当選を果たすことが出来たことに対し、深い感謝の念を述べられ、これに報いるために、校友のためならどんなことでも汗をかきたいと述べられました。それに対し、静岡市議会議員・早川清文氏(建築22回)から党派を超えてアカシアの団結を以て応援することを述べ、元応援団の勝又氏の力強いエールで佐藤氏の今後の活躍を祈願いたしました。

なお、本年は工学部校友会創設50年の記念すべき年であり、そのために校友会に大きな貢献をされた方々を顕彰することになり、本会からは藤原正臣氏(土木6回、本支部名誉顧問)が満場一致の推薦を受け、手塚会長から表彰状と記念品の贈呈を受けました。藤原先輩は40年も前から「あかしや会」の名のもとに校友会活動にご尽力され、今日このように大きな会に成長した静岡アカシア会を作り上げられ、更に静岡県庁土木部の大幹部として後輩の育成に力を尽くし、静岡県庁を始め県内公共企業体は日大工学部を一大勢力とし

て校友が活躍している今日の姿を作り出しました。まさに藤原先輩なくして静岡県や静岡アカシア会の発展はあり得ないと言っても過言ではありません。また、本会は優秀な高校生を母校に送ろうということも活動方針にしており、今年もすでに推薦入試等で多くの後輩が先輩に続けと合格しており、その代表3名が会に出席し挨拶し、出村学部長はじめ先輩達から大きな激励を受けました。本会もこのように東海支部から分離独立して3年目、多くの先輩諸氏のご指導ご協力で今日見られる大先輩から若手まで参加できる会に成長することが出来ました。感謝の気持ちであり、責任の大きさを痛感しております。



四国支部活動報告

建築33回卒 四国支部事務局長 **藪内 清二**

平成21年度四国支部総会は、総選挙も真っ只中の暑く暑い!8月22日(土)に、例年と同じく高松駅近くの「ニューフロンティア」に於いて、校友会より手塚会長をお迎えし、又愛媛県より安井氏(電気15回卒)他2名、徳島県より桑村氏(土木17回卒)、計24名の出席で開催されました。総会においては、六車氏(土木16回卒)の会長再任を含む役員改選と会計報告を審議、可決しました。

総会後の懇親会では、新卒業生木村氏のお父様も徳

鳥島より参加して頂き、手塚会長からの工学部の現況報告や出席者の近況報告で大いに盛りあがりました。本年は(社)瀬戸フィルハーモニー交響楽団より、ヴァイオリンとピアノの各1名をバグバンドとして迎え、生演奏による会の盛りあげと、校歌、若きエンジニアの歌の伴奏をお願いし、鎌田氏(土木11回卒)、牧野氏(建築22回卒)のリードのもと、全員で母校の益々の発展の願いを込め歌い、楽しく会を終了しました。

また四国支部では、校友会会員相互の日常活動における“絆”をより太くする目的で、毎月第1木曜日に「一木会」を開催しています。会場は高松三越東側の“はんぶん”(087-821-7856)で18時30分より開催しています。毎回10名程度の校友が集まっており、キーワードの“郡山”ですぐ仲間になれますので、出張の折でも結構ですので、ぜひ気楽にお立ち寄り下さい。



九州支部活動報告

建築28回卒 九州支部長 上村 公仁隆

九州支部の活動報告ですが、総会と毎月の月例会とオール日大の校友会福岡県支部の報告をします。今年も9月に第29回の総会が開催されました。案内方法は例年通りにしましたが、福岡県外からの参加者を増やすために、ここ数年は交通費や宿泊費を補助すること

にしていました。しかし、たいした効果は上がりず、遠方からの参加はあまりありませんでした。それでも転勤で福岡に来た校友やオール日大の会合で知り合った校友の出席があり、新たな参加者を加えて盛り上がった総会になりました。



毎月第3水曜日にはアカシヤ会を開催しています。インターネットのメーリングリストを利用して、定期的に案内を送っています。景気がいい話は少ないですが、情報交換には役立っています。最近は出席者が固定してきたので、今後は案内に工夫を凝らして、若い校友や新たな参加者を増やしていきたいと思います。

昨年に続き、今年の特別な活動として行われたのが日本大学校友会福岡県支部の90周年の記念事業として、日本大学の建学の祖である山田顕義先生の生誕の地である山口県萩市の顕義園を訪ねるバスツアーが、3月14日に開催されました。工科系校友会が担当でした。当日は20名がバス1台に乗りこんで、山口県萩市を目指しました。工学部校友会より4名が参加しました。当初は記念植樹の予定でしたが、校友会本部より植樹はスペースがないとのことで、顕義園の清掃活動を行いました。

アカシヤ教育研究会

建築22回卒 会長 永田 進

平成21年度、総会・懇親会は新潟県支部総会を兼ねて平成21年6月25日(木)新潟市で開催されました。平日の夕方、校務多忙の中広い県土で新潟市まで遠距離の先生も多い中殆どの会員がご出席いただいたことに厚くお礼申し上げますとともに、熱い母校愛に感激した次第であります。会は手塚校友会会長、笠井北陸支部長、大学より長林・古河両教授(土木)もご出席いただき、校友会・大学の状況を説明いただきました。総会では会員相互の研修・懇親はもちろん、特に本年度は「母校に優秀な生徒を送ろう」ということを重点施策と致しました。更に義務制では長谷川覚氏(機械

28) が校長職に就任されたのを機会に、高校と義務制との連携強化を図ろうということも満場一致で決定されました。



尚、本会の設立から今日までのご指導・ご支援いただきてきました久保田幸正氏（建築19）が20年度末で定年退職されました。先生は工学部をご卒業後、直ちに高田工高（現上越総合技高）に赴任され、その後いくつかの高校を経て県教育庁で教育行政にも携わりました。そして塩沢商工高の校長を経て平成17年には県内では100余年という最も古い伝統と実績を誇る長岡工高校長に就任されました。先生のご業績につきましてはここでは字数の関係で到底表すことが出来ませんが、後輩への面倒見に関しては万人が認める所です。県内のアカシア教育関係者は折に触れ先生にご指導ご薫陶を受けましたし、工学部教職特別講演会でもご講演を頂き、後輩への熱き思いとともに、工業教育についての現場からの貴重なご教示を頂き、学生諸君に大きな影響をお与えいただきました。今後は長年の剣の道、特に学生時代は体育会剣道部で辣腕をふるったご経験を活かし、剣道の普及を通して青少年の健全育成にお力を注ぐと聞いております。先生のますますのご健勝をお祈りするとともに、母校、本会へのますますのご支援を賜りたいと思います。

横山先生を偲んで

長野県立飯田長姫高校教諭横山賢司先生（建築36）は、平成21年8月1日病のためお亡くなりになりました。先生は勤務校でもある飯田長姫高校建築科をトップの成績でご卒業、工学部建築学科へ入学されました。4年間のアカシアの森での生活は大変充実されていたようで、生前よくお話を聞いておりました。そして卒業後は難関の公立高校教員採用試験にも見事1回でパスし、郷里長野県立木曾山林高校に赴任されました。その後、周囲のたつての要請で母校に転勤されてきました。先生の人格円満、情に厚いお人柄、バイタリテ

ィーあふれる行動力はすぐに生徒に反映し、生徒はもちろん先生方、保護者、地域の方々の厚い信頼を得て、「長姫高校の横山先生」として縦横無尽に活躍され、大きな実績を打ち立てられました。あの若さで建築科長・学年主任という重席を担ったのもその現れであり、将来の長野県の教育界を背負う人材として期待されていた証でありましょう。多くの人が異口同音におっしゃることは「横山先生は教師になるために生まれてきたような人」ということでした。

先生のご葬儀は真夏の炎天下にもかかわらず、お住まいの駒ヶ根市周辺では未だかつてなかった700余名という多くの参会者の元に行われました。まさに先生の短くも何事にも正直に体当たりのお姿の現れと思います。

先生は一昨年（平成20年11月）の母校を訪ねる会には病を押し切って愛する学び舎や下宿を訪ね、恩師、校友、下宿のおじさんおばさんと無言のお別れをしたようであります。我がアカシア教育研究会の前身、アカシア建築教育研究会が多くの校友の熱意で平成9年に発足したときも手弁当で全国各地を訪ね連絡を取り合っていたいただきました。まさに横山先生なくして今日の本会はあり得ません。本会が校友相互の交流・懇親はもとより「優秀な教え子を母校に送ろう」とその活躍ぶりが日大各学部からも注目され協力依頼を受けるようになったのも先生が真っ先にそのご提案をされ、身をもって毎年優秀な生徒を長姫高校から送り出されてきたからにほかなりません。そして、その学生の就職等の面倒も懇切丁寧に面倒を見られてきたことは我々校友の尊敬を受けておりました。

今ここに永久のお別れに際し、母校工学部、校友会に注がれた偉大な愛情と情熱に思いをいたし、誠に意をつくしません、会員一同心から先生のご冥福をお祈りいたします。

合 掌



校友レポート

「最終講義を終えて」

元 日本大学工学部准教授
機械16回卒 渡部 弘一



はじめに、本執筆に際し母校を巣立ってご活躍されている校友の皆様、この機会の風をいただいたことに対して感謝とお礼を申し上げます。ここに校友の皆さまにもフィナーレを飾ることができました。私は工学部を卒業後、母校に応募する風に押されて採用されて以来母校の発展とともに工学部の変遷を体験することができました。私が母校で奉職を続けることができたのは偏に多様な人々との出会いで、ここまでの道を導いてくれたのは、この人々が吹いた風の賜物であることと実感しています。お陰をもちまして、本年3月の誕生日を迎え、定年退職することができました。またそれに先立ち、去る1月22日に「日本大学との出会い、風に導かれるままに」と題して、最終講義をさせていただきました。無事に奉職を終えることができたことを、この紙面をお借りして校友の皆さんをはじめ、共に卒業研究に携わった463名の卒業生、教を賜った恩師、関係企業の方々にご報告かたがたに改めてお礼申し上げます。

さて、微力ではありましたが、最終講義に配布した資料の目次(図1)のように1.研究活動、2.社会貢献活動、3.教育啓蒙活動の3分野に分けましたので、在職中の活動の一部をご紹介します。

1. 研究活動(図2,3,5):私が就職した初年度に工学部は大学紛争に見舞われ、険悪な状況での出発でしたが、間もなく大学院が設置され、教育研究の重要性から退職して奨学金とアルバイトの助成で進学を選びました。新任の大学院の先生方には著名な方が多く、高い学識・見識、深い仁義礼智信ある教をいただくことができました。学会とのつながり、研究会を通して他大学の先生方との交流、国際会議の開催や参加等により、海外の大学と

の交流の経験も得られました。研究内容は3種類を継続し、高速内燃機関のための防振の研究に始まって、2度のオイルショックによる省エネルギーエンジンのスターリングエンジンの研究への変遷、石油依存から脱却のために太陽熱を熱源とするスターリングエンジンの研究、太陽エネルギー、風力エネルギー、水力エネルギーの自然エネルギー利用の研究と変遷は激しかったものの、風まかせを理解しつつ、楽しく研究に携わることができました。

2. 社会貢献活動(大学での研究・教育の従事に当たりつつ、座右の銘としている孔子の論語、「子曰、吾十有五而志乎學、三十而立、四十而不惑、五十而知天命、六十而耳順、七十而從心所欲不踰矩」を人生の歩みと重ねることがあります。35~55歳のころは公私ともに思うに任せない難しい時期であったので、その体験を後輩でもある教え子に助言できたと、今では自負しているところです。50歳半ばを過ぎてからは、世のため人のために重んじようになり、各種依頼事はほとんど協力し、難問に対峙しながら共に考えて、良い結果を見つけることができるようになりました。企業からの委託研究や、县市町村等からの各種委員会委員長の受諾、地域活性運動・イベントの依頼に参加したり、地方検察庁、地方裁判所、弁護士会等からの鑑定依頼の受託に携わってきました。

3. 教育啓蒙活動(図4,6):高齢になってからは小中学高校生への教育啓蒙活動を重んじ、出前講義や各学校の企画に惜しまず協力してまいりました。小学生に対する説明等を学生に携わらせることは、もっとも効果のある方法であることを教えてくださいました。子供たちの屈託のない疑問、質問に答えられるようになることは大変有意義で、家族から離れて生活を余儀なくされている学生が他人とのコミュニケーションを得、自主力を高める良い機会でもあり、良かったと考えています。

最後に、母校のますますの発展と向上をご期待申し上げるとともに、校友の皆様方のご活躍とご健勝をお祈り申し上げてペンを置きます。

URL <http://www7b.biglobe.ne.jp/~wtmb/>



図1 最終講義 目次



図3 太陽光・風力ハイブリッド発電研究

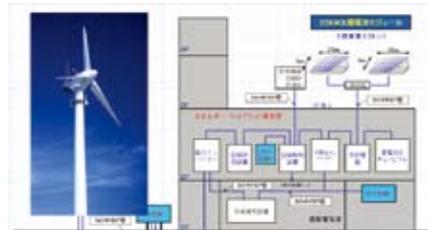


図5 ハイブリッド発電



図2 ソーラースターリング発電実験



図4 ホンダエコパワー省燃費全国競技大会



図6 小学校の自然エネルギー研修

建設業界に就職して



上野 剛

平成21年3月 機械工学科卒業(株式会社鴻池組)

私達は昨年工学部を卒業して、株式会社鴻池組に入社しました。配属先は東京本店機材センターで、東日本の現場支援、建設工事用機械の保守管理、調達、仮設計画、開発業務が主な仕事です。入社してからこの1年間は高層マンション、小中学校等の建築工事及びトンネル、シールド、土壌汚染改良等の土木工事現場を沢山見学してきました。

(株鴻池組の創業は明治4年(1871年)、設立が大正7年(1918年)で、創業から数えると140年にせまる歴史をもっています。社是三則【誠実】【懇切】【敏速】を原点として「もの創り」を通して社会に貢献し、「夢と誇りを持てる会社」を創造することを経営理念に掲げた中堅ゼネコンです。

建設業界で機械工学科卒業の私たちが「何をするの」と、思う方も少なくないと思います。入社したきっかけは、陸上部の先輩であり配属先機材センターの小池忠夫所長(昭和50年工学部機械工学科卒業)から建設業について話を聞く機会を得たことからです。陸上部顧問の西村孝先生からも建設業はこれからもっと機械・電気の技術者が必要とされ、土木・建築工事のもの創りは面白いと、楽しい事を沢山聞かされました。また、学生の就職活動時も数人で(株)鴻池組の高速道路工事、地下鉄工事、高層マンショ



クライミングクレーン



大森 達彦

ンの建築工事を見学することができ、男の仕事として面白そうで興味がわき大森君と一緒に入社しました。

(株鴻池組機材センターで機械科卒の私達の役割と仕事内容を簡単に説明します。

施工現場に於いて安全で効率的な施工をするには機械化が大変進んでいます。複雑な施工は生産性を向上させるため高度な機械を使い、その機械をどう調達、運用するかを計画し、また現場に据え付けて、技術、管理の両面からバックアップし、無事故で工事を完成して社会に貢献することです。

写真は私達が実施に立会いに行った現場です。このようなクレーンは都内ではよく目にしていると思います。このクレーンの設置計画をし、組立てに立会い組立指導にも参画しています。

私達の仕事はモノを創るのではなくモノ創りの手伝いをするのです。

入社してまだ間もない私達は現場に行くといわれないことばかりで、多くの事を覚えるのも大変ですが、やりがいのある仕事だと思っています。

今は早く一人前になるよう一つ一つ丁寧に仕事を覚え頑張っています。



オープンケーソン(内側)



オープンケーソン(外側)

俊英学寮の思い出

平成15年度寮生長
電気電子工学科平成17年3月卒
齋藤 勇樹



私が大学に入学したのは、平成13年4月。会津美里町（旧会津高田町）の田舎から出てきて、俊英学寮に入寮しました。

多くの人は大学に入ったら「一人暮らししたい」という方が多数だと思いますが、規則正しい生活がしたくて迷わず寮に入ることを大学合格通知を頂いた瞬間から考えていて、思い出がいっぱい詰まった寮がなくなると聞いて大変ショックを受けました。私が寮で過ごした3年間は、いろんな出来事がたくさんありました。

寮には3年生が2人（寮生長・副寮生長）・2年生が8人（指導寮生）・1年生が100人程度いました。全国各

地から入寮を許可された1年生が集まり、同じ建物の中で同じ釜の飯を食べ、喜怒哀楽を共有し互いの信頼関係や団体生活の大変さなど、年頃の青年にはなかなか体験できない人生経験をさせていただきました。

1年生は電化製品は禁止・24時消灯。一番つらかったです…。ただ、テレビなど現代の生活にあって当然の物がないからこそ、隣部屋の寮生や寮全体の人と友達になれ、電化製品がない生活はあまり苦になりませんでした。2年生・3年生になると、寮全体の調整事項や1年生の指導。時には、同じ指導寮生とぶつかり合ったほろ苦い経験もしました。

言葉では言い尽くせないほどの人生経験をさせてもらった俊英学寮が閉寮になってしまう事は大変胸が痛いですが、共に寮生活をした先輩・後輩・俊英学寮OBの方々との経験した事は私の人生の中で一生大事にしていきたいと考えています。

最後に、俊英学寮に携わるすべての方々へ感謝し、寮生活3年間であった出来事は私の人生の大きな宝物のひとつです。



●サークル活動主な成績

剣道部	第57回東北学生剣道選手権大会	9位:大澤克平(3年土木)	第57回学生剣道選手権大会出場 (三回戦敗退)
硬式野球部	南東北大学野球連盟秋季リーグ戦	準優勝	第1回明治神宮野球大会 東北地区代表決定戦出場(敗退)
洋弓部	東北学生アーチェリー王座決定戦	個人優勝:金子卓矢(2年電気)	
卓球部	日本大学体育大会	3位	
バドミントン部	日本大学体育大会	優勝	

●「物質化学工学科」の学科名変更

物質化学工学科は、平成22年4月1日より「生命応用化学科」と学科名が変更されます。

●工学部で就職セミナー開催

日本大学工学部の第一回就職セミナーが求人を目指す会社467社を招いて、2月9日、12日、13日の3日間に分けて行われた。このセミナーは工学部のキャンパス内にブースを作り実施され平成23年3月に卒業する現3年生および大学院1年生を対象に行われた。昨年のセミナーで内定にまで発展するケースは44.6%に達した。

校友会ではこのセミナーを応援する意味で昼食時のお茶のサービスを行い、各企業の面接担当者に喜んで頂いた。第2回目および第3回目の企業セミナーは

第2回目

平成22年5月22日、29日、6月5日(土)12:00~16:00

第3回目

平成22年9月25日 12:00~16:00

を予定しています。このセミナーへの参加ご希望の企業は工学部就職指導課 TEL024-956-8644

または E-mail syusyoku@ao.ce.nihon-u.ac.jp

のどちらかへ御一報下さい。



工学部教員定年退職者

(平成17年4月~平成21年12月)

土 木	藤田 龍之	平成18年3月31日付	
	村田 吉晴	平成18年4月8日付	
	森 芳信	平成19年3月31日付	
	田野 久貴	平成20年3月31日付	
	中村 玄正	平成20年3月31日付	
	西村 孝	平成21年3月31日付	
	建 築	有賀 保二	平成17年8月3日付
		岩崎 博	平成17年9月30日付
		佐藤 平	平成17年9月30日付
		黒田 浩司	平成18年3月31日付
大瀨 嘉彦		平成19年3月28日付	
渡澤 正典		平成19年9月27日付	
機 械	八町 雅康	平成21年7月4日付	
	橋本 耕吉	平成17年9月6日付	
	棚澤 一郎	平成17年9月30日付	
	柳沼 孝侑	平成20年1月14日付	
	小野 沢元久	平成20年3月31日付	
	坂野 進	平成21年3月31日付	
電 電	野村 武義	平成21年8月31日付	
	木田 拓郎	平成20年3月31日付	
	小林 力	平成21年3月31日付	
物 化	杉浦 義人	平成21年9月28日付	
	佐藤 良和	平成18年9月17日付	
	木戸 寛明	平成21年3月31日付	
情 報 総合教育	山本 登	平成20年3月31日付	
	続 馨	平成17年9月5日付	
	唐木 沢孝夫	平成18年2月17日付	
	星 一以	平成18年3月31日付	
	片山 善重	平成20年3月31日付	
	柳原 司	平成20年3月31日付	
	鈴木 詔悦	平成20年9月7日付	
	長坂 宗男	平成21年1月5日付	
	伊藤 益基	平成21年2月11日付	
	佐藤 勲	平成21年3月31日付	
常盤 満	平成21年3月31日付		
和田 勝	平成21年3月31日付		

1. 歴代会長の座談会開催

校友会発足50周年を記念して平成21年9月17日、渡澤幹事長の司会により、歴代会長を囲む会が市内のホテルで行われ校友会創立時の苦労話などをお伺いできた。出席者は、関根昭一氏、太田雄八郎氏、松山光克氏、木村圭二氏、佐藤光正氏、加藤木研氏の会長経験者をはじめ、校友会役員7名であった。詳しい内容については50周年記念誌に掲載予定である。



2. 校友による講演を開催

平成21年12月19日に土木工学科20回卒の校友の金澤昭治氏が、工学部の公務員試験対策講座で郡山市役所勤務中に経験した公務員の仕事について講演した。この日行われた公務員合格者による公務員体験談発表会の冒頭に行われ、公務員を目指す2・3年生は真剣に聴講していた。この講演は就職指導委員長、武内教授の依頼により実現した。



3. 第27回日本大学工科系校友会連絡会開催

平成21年8月29日に薬学部を会場として開催され、工学部からは役員6名が参加した。各学部校友会の活動報告があり、共通の話題として入学志願者増への協力方法等について意見交換がなされた。

この会終了後、第12回工科系校友会支部長会および懇親会が開かれた。また、前日の28日にはゴルフコンペが行われ、親睦を深めた。

4. 校友会グッズ販売

建築学科8回卒の古橋栄吉氏作品による「日本大学工学部キャンパス絵ハガキ集」8枚入りセットの販売を開始しました。



ご希望の方はメールまたはFAXで必要部数をお申し込み下さい。代金はハガキセットと一緒に振込用紙をお送りしますのでお振り込み下さい。尚、校友会ホームページ(<http://www.nichidai-ce-koyukai.com>)にて古橋氏のインタビュー記事を掲載しております。そちらもあわせてご覧下さい。

1セット価格 1,100円 (送料込)

メール info@kouyu.ce.nihon-u.ac.jp

FAX 024-944-1327

※FAXでお申し込みの場合は氏名・卒業学科・お送り先をご記入下さい。

5. 工学部校友会50周年記念誌

「ダイジェスト版」を発行

平成21年6月、在校生向けの50周年記念誌「ダイジェスト版」を発行しました。9月のガイダンスにて在校生に配布しました。



6. 50周年記念誌

本誌は平成22年6月の発行を予定しています。御購入を御希望の校友は、「氏名・送付先住所・必要部数」を記入の上、メールまたはFAXにてお申し込み下さい。予約は5月末日を締切とします。

価格は送料込みで1,500円(予価)です。

〈本誌の内容〉

- 校友会発足当時の思い出・校友会活動の記録
- 歴代会長座談会・各支部の活動
- 寄稿・寮の思い出・写真や資料のコピー等満載

7. 工学部校友会賞に3名選ばれる

中澤 雅人(電気電子工学科卒):体育会第40代委員長
 中島 敏真(機械工学科卒):第58回北桜祭実行委員長
 荻原 圭佑(機械工学科卒):善行賞
 以上の3名は卒業記念パーティーで表彰されます。

8. 北桜祭実行委員会との打合せ

平成22年1月15日、北桜祭実行委員会と打合せを行いました。今回で60回目となる北桜祭へ校友会から出来る限り援助することが話し合われました。これを機に学生と接する機会を増やしていければと思います。



9. 工学部へ雷警報機設置の一部助成金130万円を援助

平成21年8月に工学部グラウンド付近に設置。これによって落雷事故を未然に防ぎ、学生が安心してグラウンドを利用できることを願っております。尚、スピーカーの支柱には工学部と連名で銘板がはいつております。



10. 「(有)人事新報社」からのダイレクトメールにご注意下さい

最近「(有)人事新報社」と名乗る団体名で卒業生宛に「日本大学工学部職業別名簿発刊のお知らせ」との往復ハガキが送付されております。

この団体と日本大学工学部及び校友会とは全く関係ありません。また、この団体に名簿等の発行を依頼した事実もありません。よってこの団体に返信をする必要はありません。返信をされた場合、日本大学工学部及び校友会としては責任を負いかねますのでご了承願います。

日本大学工学部校友会会員通信費寄付者ご芳名

(敬称略・平成21年2月10日～平成22年2月9日)

●56回卒

土木 坂上 哲也
 佐藤 典央
 佐藤 広幸
 建築 青木 正夫
 齋藤 有香
 龍田 樹
 福富 啓太
 宮口 規章
 機械 木戸 浩太郎
 山崎 達哉
 電気電子 石黒 崇
 塚田 和甫
 長谷川 公亮

物質化学 田下 茂樹
 情報 柏木 祐紀
 佐藤 博紀

●57回卒

土木 後藤 文尚
 篠原 寿一
 鈴木 伸充
 高梨 一浩
 土地 直也
 松井 祐樹
 渡邊 聡
 建築 石橋 慧人
 岡野 健太郎

河野 智弘
 古杉 進一郎
 柴田 孝行
 外岡 邦規
 水口 拓哉
 米倉 章朗
 饗場 広明
 勝畑 智之
 栗田 脩平
 佐々木 辰徳
 澁谷 賢
 菅井 将茂
 林 悌二郎
 人見 孔太

藤巻 知博
 電気電子 青野 正俊
 新井 洋平
 伊沢 一喜
 宇野 太裕
 児玉 康平
 齊藤 一樹
 三好 淳
 物質化学 新井 理恵
 板谷 裕輝
 稲葉 匡人
 白岩 祐介
 鈴木 猛司
 花村 仁嗣

情報 泉 奈津子
 加藤 拓明
 小菅 展洋
 小原 澤優成
 酒井 翔司
 佐川 太一
 清水 成昭
 菅原 雄太
 長岡 敦志
 渡邊 彰彦

日本大学工学部校友会会員各位

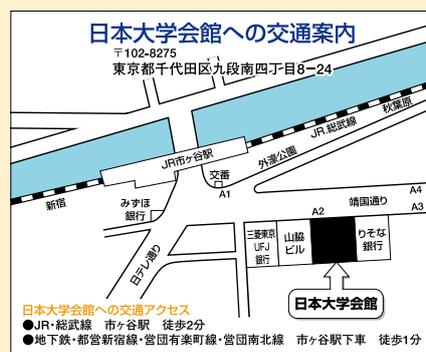
平成22年3月1日
校友会会長 手塚 公敏

平成22年度 通常総会通知

本会会則第14条により、日本大学工学部校友会平成22年度通常総会を下記の通り開催いたします。皆様には年度始めにあたりご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、多数ご出席くださいますよう、ご通知申し上げます。

記

1. 日 時／平成22年4月24日(土)14時より
2. 場 所／日本大学会館（市ヶ谷）
3. 議 題／（1）平成21年度会務報告および決算報告
（2）平成22年度事業計画および予算審議
（3）その他
4. 懇親会／総会終了後、大学関係者を迎えて懇親会を開催



第30回 母校を訪ねる会

- 日 時／平成22年10月17日(日)
場 所／日本大学工学部50周年記念館
(ハットNE)を予定
対 象／第8回卒業生(昭和35年3月卒業)
第18回卒業生(昭和45年3月卒業)
第28回卒業生(昭和55年3月卒業)
第38回卒業生(平成2年3月卒業)
第48回卒業生(平成12年3月卒業)

今回は左記の卒業生が母校訪問の主たる対象となりますが、対象年度に関わらず、ご来校ください。大きく発展・成長した母校をご覧いただき、恩師や旧友との再会に懐かしい一時をお過ごしください。この日は第60回北桜祭開催中です。

なお、クラス会を予定されている幹事の方は校友会にご一報頂ければ幸いです。

招待対象を卒業後50年以上の校友全員と卒業後10年目までに拡大しました。

校友会報 第73号



- 発 行 者 日本大学工学部校友会
福島県郡山市田村町徳定字中河原1
郵便番号 963-1165
電話番号 024-944-1327
FAX番号 024-944-1327
E-mail : info@kouyu.ce.nihon-u.ac.jp
URL : http://www.nichidai-ce-koyukai.com
- 発 行 部 数 48,000部
発 行 日 平成22年3月1日
発 行 責 任 者 校友会会長 手塚 公敏
編 集 責 任 者 編集委員長 長澤 幸二